

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070300324		
法人名	医療法人 医和基会		
事業所名	グループホーム金刀比羅	ユニット名	2階
所在地	福岡県北九州市戸畑区金比羅4-29		
自己評価作成日	平成24年11月26日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年12月17日	評価結果確定日	平成25年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>今年度は「原点に戻ろう」をテーマに現在行っているケアや関わりについてその意味をもう一度深く見つめ直すことにしました。過ぎていく毎日の中で今まで忘れがちであった事をもう一度見つめ直し原点に戻る事で生活がより豊かになるよう取り組んでいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>金比羅池や県営中央公園、到津の森公園等が隣接する、恵まれた周辺環境の中に位置している。近隣には、関連する福祉施設や事業所が集積しており、日常的に交流や連携を図っている。また、隣接する有床診療所や、母体医療機関との密な連携は、入居者、家族の大きな安心となっている。法人としてのスケールメリットを十分に活かしながら、開設12年目を迎える今年度は、「原点に戻ろう」をテーマとし、管理者、職員による、日常の暮らしを大切にしたいアプローチが行われている。支援の根拠となる情報収集や課題分析、計画作成と共有等、前回評価からの充実も確認でき、サービスの向上への真摯な取り組みがうかがえる。また、馴染みの関係性の継続や、「食」の充実、外出の機会の拡大等、3ユニットそれぞれが、連携と主体性を発揮しながら、ケアのあり方について検討し、個々人の思いや潜在するニーズに向き合おうとしている。専門職としての研鑽を積みながら、暮らしの中での心身の変化にさりげなく寄り添い、家族や地域、法人との連携を、安心して暮らし続けることが出来る環境作りに活かしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、各所にも掲示すると共に名札にも記載し意識を高め、ニーズに応えられるよう努力している。	3項目からなる独自の事業所理念のもとに、今年度は暮らしの場所であることを改めて意識し、「原点に戻ろう」との目標を掲げている。また、職員のケア目標である「顔晴る(がんばる)」は、入居者の方による毛筆書きで各ユニットに掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する建物の行事の参加や近隣花壇の里親となり手入れをしたり散歩などで近所の方々と挨拶を交わすなど日常的に交流している。また、地域の盆踊りに参加している。	近隣には民家が無い環境ではあるが、階上に位置する高齢者向け優良賃貸住宅をはじめ、近隣には関連法人の福祉施設が集積しており、交流や連携を図っている。また、県営中央公園内に設けられた花壇の里親となり、入居者の方とともに手入れを行い、好評を得ている。戸畑祇園や小倉祇園、ボランティアとしてフラダンスの訪問を受けている。防災訓練時には、地域の自治会ボランティアの方々の協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議にて取り組んでいる事を話し、理解して頂けるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、ご家族の方、自治会の方そして他事業所の方にも、会議に参加して頂き、意見交換しサービス向上に活かしている。	入居者、家族、自治会長、ボランティア代表、他グループホーム、地域包括支援センター職員、ホーム職員等、広く意見を求めながら、定期開催されている。状況報告や意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。共用空間には開催案内が掲示され、今後は、家族への議事録の送付も予定されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方と、推進会議にて取り組みについて伝え意見を頂いている。相談や情報収集を行っている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加を得ている。行政主催の勉強会や地域ケア研究会への参加を通じて、担当者との意見交換や情報共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、定期的に勉強会を行っている。交通量も多く近くに山もある為入居者の安全を第一に考え、ご家族の了解のもとエレベーターを施錠しているが閉塞感が無いよう努力している。	各ユニットから担当者を出し、事業所としての身体拘束廃止委員会を設けている。ホームは複合施設の2～4階部分に位置し、家族との話し合いによりエレベーターは使用制限が行われている。入居契約時や介護計画作成時には、身体拘束をしないケアについて、家族との共有認識を育みながら、外出の機会の拡大にも取り組んでいる。また、車椅子のまま過ごすことのないよう、その都度の移乗を意識している。委員会活動や運営推進会議を通じて、現状の再確認やケアのあり方について、検討を続けていく意向である。	

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、職員への理解と、意識向上に努めている。また介護主任、フロアリーダーが日頃より注意を払い防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護に関する研修に参加し勉強会を通して全職員が学べる機会を設けている。	権利擁護に関する制度について、行政の主催する研修に参加し、内部での伝達に努めている。現状としては活用事例はないが、法人内の活用実績も活かしながら、必要時には支援が行える体制である。運営推進会議等を通じた、より積極的な情報提供も期待される。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に十分説明し、改定の際は、文書や面会時又は、電話にて説明し理解、了解を得ている。また疑問点等、いつでも問い合わせに対応できる状況を作っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等でご意見、ご要望を伺っている。また積極的にコミュニケーションをとり、話しやすい関係づくりに気をつけている。	年1回、家族会を開催している。家族来訪時や介護計画作成時も含め、家族意見の収集に努めている。意見や要望は職員への周知を図り、ミーティング等にて検討を行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや終礼等で、様々な意見や提案を聞く機会を設け問題点、改善点を上げ、反映させている。	事業所全体やユニットごとの定例ミーティングや勉強会を通じて、意見交換を行っている。また、年1回、職員ヒアリングを実施する等、職員意見の収集に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの得意な事が活かせるように役割分担している。法人からは永年勤続者への報奨金の支給や資格手当、介護職員処遇改善加算による特別手当を支給するなど配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢は問わず採用し、本人の希望や能力を生かせるよう配慮している。	3ヶ月の試用期間を経て、嘱託正職員としての採用が基本となり、現在、職員体制は安定している。関連法人も含め、多様な介護サービス事業を展開しているが、異動は最小限にとどめ、馴染みの関係性を大切にしている。採用にあたっては、年齢や性別による排除は行っていない。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修や勉強会の場を通して知識を深められるよう取り組んでいる。	行政が主催する人権研修への参加や、終末期の尊厳に関する研修も含め、様々な視点から人権教育、啓発に努めている。また、メンタルヘルスの研修も行われ、職員のストレスケアにも留意している。	

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの特性を把握しそれに合った研修への参加の機会を設けている。また定期的に研修報告会や勉強会を行い、全職員のスキルアップに努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「交流会」と称し近隣の他事業所職員と意見交換を行っている。また行事の際は他事業所の方を招き交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は、担当者会議を行い、ケアプランに反映させている。入居初期は、職員間で情報伝達、共有し、コミュニケーションがとりやすく、安心して生活できる環境づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は、担当者会議を行い、ケアプランに反映させている。また話しやすい環境を作り、随時相談が受けられるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じてショートステイを紹介している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の得意な事が発揮できる場面を意識的にもつようにしている。一緒に生活することで教えて頂くこともたくさんあります。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活の様子等情報交換を密に行うようにしている。今後もご家族の方が一緒に参加できる行事を増やしていきたい。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室やスーパー、懐かしい思い出の場所等、ご家族にも協力して頂き外出できるように努めている。また二ヶ月に一度「金刀比羅通信」を郵送している。	家族とも協力しながら、以前住んでいた場所を訪ねたり、馴染みの美容室を継続して利用している。また、文通や年賀状を交わす中で、旧交を温めている。地域住民として馴染みのある金比羅地区にホームが位置していることや、若戸大橋へのドライブも実施されている。日頃から、居住地のことや、思い出について会話している。	

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	お互いの居室に行き来されたり、体調が悪いと 心配して下さっています。食卓での席を工夫し たりスタッフが間に入る事で会話が弾むよう努 めています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせや相談等、利用契約時と変わらぬ 対応でおこないます。又、必要に応じて関係機 関・関係施設へお繋ぎします。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常の会話の中から、その方の意向を探り実 施できるように努めている。困難である時でも その方が何を望んでいるかを一番に考えてい くようにしています。	センター方式に加え、独自の様式も用いながら、様々な 視点から情報収集を行い、3ヶ月ごとに更新している。個 別の記録には、日々の様子や発言が記載され、心身の 状況把握に努め、職員間で共有を図っている。カンファ レンス等にて検討を行い、思いや意向の把握につなげてい る。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居前だけではなく、入居されてからも日頃の 会話等から情報収集するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	その日の気分や体調、天候によって過ごし方 が変わってくるので、気づきをケース記録に記 入しスタッフにつなぐ事を徹底している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	毎月一回の評価をもとに3か月に一回の周期で 話し合いを行いケアプランを作成している。	個人記録は介護計画との連動も意識されており、毎月の 「ケアプラン評価表」の作成やカンファレンス、3ヵ月毎の 再アセスメントを通じて、現状の確認と評価、見直しの必 要性について検討されている。入居者、家族の参加する 担当者会議や、医療関係者との情報交換を行いながら 計画は作成されており、本人、家族の役割や、暮らしを支 える視点も含まれ、前回評価からの充実がみられる。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	家族との関わりやスタッフの間の気づきが分 かるようケース記録を改良しスタッフ全員が情 報を把握できるよう工夫している。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	3ヶ月に1回アセスメントを行いご家族様との情報交換を密に行っている。また多様なニーズに対応できるよう取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの金比羅池まで散歩に行ったり、スーパーに買い物へ行く等している。またボランティアの方の訪問もありダンス等を楽しんでいる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所が隣接しており、定期的に戻診、受診を行っている。又、週に一度訪問診療も行っている。状態に応じて、すぐに受診を行っている。	入居時に、かかりつけ医について確認している。診療所が隣接していることや、母体となる医療機関との連携も含め、24時間対応可能な体制は、本人、家族の安心感へとつながっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	金刀比羅診療所と契約し、24時間連絡可能な体制である。気づきや異変時は、相談しアドバイスや指示を仰いでいる。緊急時は診療所・協力病院への受診や看護が受けられる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師やソーシャルワーカー、看護師等、リハビリスタッフと情報交換を行っている。入院中も面会に行き状態の把握や情報提供するよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における指針」を確立している。ご家族と職員全員で協力体制を整えている。	入居時に、「重度化した場合における対応に係る指針」をもとに説明を行い、同意を得ている。現状として、基本的には法人内の医療や施設との連携による対応となるが、今後のニーズへの対応については課題としており、研修実施や会議での検討が行われている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員を設置し、定期的な会議、勉強会や訓練を実施している。マニュアル作成をしている。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し定期的な勉強会を行い意識するようにしている。また近隣施設や地域の方にご協力いただき定期的に避難訓練を実施している。	入居者の参加、及び近隣の福柳木・一枝地区の自治会よりボランティアとしての協力を得て、近隣施設との合同避難訓練は開催され、相互の連絡や連携を確認している。また、2ヶ月に1回、電気系統のチェックが実施されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格に応じた声かけやプライバシーに配慮した対応、プライドを尊重した対応を心掛けている。また勉強会を行い意識を高めている。	個別の時間の流れを重視し、ある程度の生活リズムは確立できるよう支援を行っているが、画一的なケアではなく、その方に応じた対応に努めている。また、接遇等の研修を通じて、人格や誇りを損ねない言葉かけや対応について、意識を高めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活全般においてご自身で選択できるように声かけを工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりごとは作らずその日の体調や気分天候に合わせて過ごすようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回理美容の訪問があり希望される方が利用されている。その方の好みに合わせた服装や身だしなみが出来るようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事は準備、盛り付け、片付けまでスタッフと一緒にしている。誕生日等は軽食やケーキを作ってお祝いしている。	炊飯のみホームで行い、法人厨房での調理となる。毎月厨房との会議を行い、メニューの工夫や、嗜好や状態に柔軟な対応が行われている。全国の郷土料理の日を設けたり、鍋を皆で囲んでいる。「こんびら通信」には、包丁を手に材料を刻み、焼きそばやお好み焼きを手作りしている様子も掲載されていた。また、「お父さんが作った水ようかん」の再現に取り組んだこともあった。食後も余韻を楽しみながら、ゆっくりと過ごしている。うどんを食べに出かけたり、喫茶を楽しんだり、個別や少人数で外出に出かけている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導に添った栄養バランスのとれた食事を提供している。また本人に合った食事形態で提供し、食事量、水分量は毎日記録している。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、うがいの声かけと出来ない所への介助を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンシートを参考に事前にタイミングを見て声かけや状況を見て介助を行っている。	排泄チェック表を用い、個別の状況やパターンの把握に努めている。カンファレンス等を通じて、個別の検討を行い、トイレ誘導や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と飲食物の摂取によりその方に応じた便秘の予防を心がけている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は予定として決めてはいるが希望や体調により随時変更可能としている。安心して気持ちよく入浴できるよう実施している。	週3回を基本とするスケジュールは立てているが、毎日入浴準備を行い、希望や状況、体調等にあわせて、柔軟に対応している。家族との温泉旅行に出かける方もいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活習慣や運動量に応じて声をかけています。寂しさや不安のある方には寄り添い安心してもらえるようにしています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はすぐに確認できる場所にあり目的用法を把握し疑問点があれば主治医及び薬局に問い合わせている。日々の小さな変化も見逃す事のないように努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活感を把握し、「やろうか？」と入居者様から言っただけのような場面づくりをしています。買物に行く機会は以前より増えています。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「今、やりたい」という気持ちを大切にしたいので出来る限り希望に添えるようにしています。行きつけの美容院等はご家族様の協力を得ている。	コンサートを聴きに出かけたり、コンビニエンスストア、本屋、スーパー等に出かけ、買い物する機会もある。以前住んでいた場所や、住所地に近い馴染みの場所等、家族とも連携しながら個別の外出支援が行われている。金比羅池周辺の散歩コースの活用や、県営中央公園内の花壇の里親となり、花の選択から入居者の方が主体的に関わり、職員とともに整備を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の現金以外は事務所にて管理している。買物に行かれた時の支払い等は入居者様に行ってもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を書いて出したり返事を書いたり手紙のやり取りをしている。希望があればご家族様に電話をかけている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りを入居者様と一緒に作ったり散歩に行った際、花を摘んできたりしています。又、不快にならない音の大きさや採光を心がけています。	9階建ての2~4階部分に位置するホームではあるが、各ユニット工夫し、生活感や温かみを感じる。「針仕事・裁縫を受け付けます」「ズボンの裾上げ受け付けます」と掲示のあるユニットもあり、入居者の力を発揮する場面を広めている。車椅子のまま過ごすことのないよう、その都度の移乗を意識し支援を行っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人おひとりがソファ等に座ってゆっくり過ごせるようにしている。多目的室も有効に活用している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや思い出の品を置き居心地良く過ごせるように努めている。	居室には、使い慣れた家具やテレビ、仏壇等が持ち込まれている。また、その方にとっての大切なものや家族の写真が掲示され、安心して過ごせるよう配慮されている。生活感あふれる居室やシンプルな居室もあり、それぞれの方にとっての居室作りとなっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具、テーブル、ソファについては工夫した形で配置している。また、出来る事を活かせるよう生活雑貨など目につきやすい所にあり、家事等しやすいようにしており安全には十分配慮している。		